心に残る文化財子ども塾　活動の概要と様子
～ 島根県立石見養護学校 ～

1. 活動の概要

6月 29 日(月)、邑智郡邑南町にある島根県立石見養護学校で『心に残る文化財子ども塾』を行いました。

はじめに、全員の自己紹介を行いました。その後、生徒の皆さんの居住地ごとに作った遺跡マップを配布し、身近に遺跡が多いことを確認しました。皆さんは地元愛にあふれており、自分の地元に遺跡やお城がたくさんあることを喜んでいました。

次に、和同開珎づくりの開始です。動画で和同開珎について学び、現在使っているお金や古いお金に実際に触れ、和同開珎づくりのイメージを高めました。和同開珎づくりは低融点金属を溶かして鋳型に流すために、低温ではあるものの危険も伴います。事前に注意点をしっかり知らせ、全員が手順や注意点を理解して進めることが、安全に作業を行うために重要です。皆さんは私たちの注意点の説明を集中して聞いていました。

作業は2人一組で行いました。鋳型を組み立て、低融点金属を溶かして流し込みます。各組がそれぞれ分担して慎重に作業を進めます。鋳型に金属を流し込んだら、固まるまでしばらく待ちます。

待ち時間を利用し、お金のクイズを皆さんに解いてもらいました。クイズはお金の歴史やお金に関する漢字を考えるもので、結構難しかったのですが、机に敷いていた新聞紙に答えとなる漢字が書かれていることに気づいた生徒さんがおり、その後は皆さん新聞紙をしっかり読み込んで答えになりそうな漢字を集中して探していました。クイズが盛り上がったのは生徒の皆さんの観察力や発想力のおかげでした。

その後、金属が固まるのを待ち、鋳型を開けました。どの組も綺麗な和同開珎ができていました。やすりで仕上げをして完成です。全員が作り方や注意点をしっかり聞いて、協力しながら作業を行った結果、うまく完成できたのだと思います。

2. 活動の様子

1)お金のクイズ



本物の貝殻にも
触れました

2）和同開珎づくり



やすりでみがき、
和同開珎を
完成させます

3. 子ども塾を終えて

1） 生徒の皆さんから…

・和同開珎の前は何を使っていたのかわかった。

・昔もお金を作っていることを知らなかった。 卑弥呼の時代より新しいお金だと知れてびっくりした。

・昔のお金がどうやって作られていたか知ることができてよかった。

2） 担任の先生から…

・生徒が最初から最後まで興味をもって、集中して取り組むことができた。

・昔のお金に触らせていただいたことで、現在のお金との違いを感じることができた。

・生徒の居住地域の遺跡をそれぞれに地図で示して、遺跡が多い、お城がいっぱいなど伝えてもらい興味を持っていた。

・漢字クイズは難しい漢字が苦手な生徒もいるため、少し難しいかなと思っていたが、生徒が新聞紙の中から漢字を自分で見つけたことから、みんなが探し始め、どの生徒も楽しく取り組めた。生徒の発想で充実した。

3） 埋文センターから

今回は和同開珎づくりを主に、お金の色々なことを学ぶ子ども塾となりました。

まず、事前の打ち合わせで生徒の皆さんが居住している地元に対する愛が非常に大きいと伺っていたので、学校周辺の遺跡を単に学ぶのではなく、各生徒の地元の遺跡地図を作成し、それぞれ配布して皆さんの地元にどれほどの遺跡が存在するか、お城跡がいくつあるのか知っていただくことを最初に行いました。皆さんは私たちの想像以上に盛り上がり、地元愛をすごくもっている様子が短時間でもよくわかりました。すごく良いことだと思います。

和同開珎づくりは危険を伴います。手順や注意点をしっかり聞いて、生徒同士で協力し、落ち着いて行動すれば問題ありません。今回は皆さんが集中力を発揮し安全に実施できました。和同開珎もきれいな仕上がりのものができていました。また、和同開珎づくりに関して漢字クイズを行いました。少し難しいのではと気にしていましたが、大変興味をもって進めていき、途中漢字を考える場面では机に敷いた新聞紙を読み込み関係する漢字を探すなど自分たちで応用をきかせるなど、授業の難しさを生徒の発想で充実したものにしていただきました。皆さんの創意工夫によって良い授業になったと思います。

これからも地域の歴史に興味関心をもっていただけると大変嬉しいです。